

2019. 8. 6

畑 啓之

臭いに関する感受性は人それぞれ 臭いが原因でアレルギーを発症する人は少ない??

臭いアレルギーを発症する人の割合は、花粉症を発症する人の割合よりはるかに少ない。さらに、花粉症ではその原因が、メジャーなものでスギ花粉、ヒノキ花粉であり、この2つの病名の括りで多くの患者が認められるから、日本における認知度には大きなものがある。それに対して化学物質アレルギーは、それを発症する化学物質の数が非常に多く、それぞれの化学物質ではその化学物質が原因で起こるアレルギー患者の群(括り)を作り上げることは難しい。従って、そのアレルギー症状は一般には認識されにくい。

典型的な化学物質アレルギーといえば、新建材に含まれるホルマリン(ホルムアルデヒド(HCHO))などの低分子揮発化合物が原因で発症した、ハウスシック症候群などがこれに当たる。医学的に名前がついて、初めてその患者がその病名の元に集約される。

ハウスシック症候群(Wikipedia)

新築の住居などで起こる、倦怠感・めまい・頭痛・湿疹・のどの痛み・呼吸器疾患などの症状があらわれる体調不良の呼び名。また、新品の自動車でも同様の症状(New car smell)が報告されており、シックカー症候群としてマスメディア等で取り上げられている。職場だけでなく住居で多くの問題があることから歯科医師の上原裕之が命名した。

私も化学を生業としていた割には化学物質にめっぽう弱い。アレルギー症状を示す。最初にとあるベンゼン環が一つよりなる化合物でアレルギー症状を発症した。その後、分子量の小さな化合物にいたって弱くなった。その代表の一つが香料である。最近では香入りの洗剤が大いに宣伝されその売り上げを伸ばしているが、朝の洗濯時には部屋の窓を開けていられないこともある。アレルギー症状のあるものにとっては、朝は魔の時間帯である。同じく、最近の化粧品などの香料の強さには閉口している。電車などでは車両を移らなければならないほどに強いにおいを感じることもある。過敏症であるから、他の人であれば何ともない臭いが強く感じられるのであろうか。このような体では、うら若き女性との浮気などは、夢のまた夢である。香(臭い)のバリアが張られているので、近寄ることもままならないだろう。

臭いに対する苦しみはその人にしかわからない。会社の研究室でもそうであったが、一人だけが「におい、におい」と騒ぎ立てているように、周りからは見られる。新聞記事に紹介されているアレルギーを発症した女性もきっとそのような状況だったものと想定される。ただし、発症原因となった化学物質が明確となったことで、裁判所が損害賠償の判決を下した

例である。しかし、一旦アレルギー症状を発症すると（化学物質に感作すると）その症状は半永久的に消える可能性はないので、根本的な救済方法はない。「元の健康な体に戻してください」と訴えかけたところでそれが治る可能性は小さいのである。

微量の、人には感じ取れないほどの量の化合物が、ある人には凶器として働きアレルギー症状を引き起こす。この不幸に陥る人は非常に小人数であるので、なかなか救いの手が差し伸べられない。また、同じ化学物質でアレルギーを発症している人は他にもいるかもしれないが、ある化合物で発症したアレルギーという括りではその情報密度はきわめて小さいので、社会に認知される可能性も小さく、従ってその危険を警告する水平展開の機会も得られにくい。

臭いアレルギーは厳然として存在するが、人にはなかなかわかってもらえない種類のアレルギーである。

毎日新聞 2019.8.6

暮らしナビ 合 ライフスタイル

体調不良 化学物質が原因？



エアコン清掃で化学物質過敏症を発症した女性。エアコン清掃時にマスクを外せず、めまいやからつきなどの症状に苦しんでいる。

「薬のよくな臭いが充満し、むせて気持ち悪くなったんです。女性が自宅のエアコンから強い刺激臭に気がついたら、2019年夏、業者は清掃を頼んだ直後だった。女性によると、業者はエアコンの前面カバーと送風機などを業務用のアルカリ洗剤などで洗浄した。清掃後にエアコンを稼働させると、目のかすみなどを感じるようになった。胸の痛みも起き、しゃみを繰り返して、自身の体をなめた後に嘔吐するようになったという。

業者は「エアコンと同じような臭いを感じるようになったら、頭痛や吐き気が治まらず、一時的に転居して症状が軽くなった」と主張しているが、業者が「十分に洗い流さ

●「洗浄不足」認める
女性住民調査員に自費で鑑定を依頼して自宅の化学物質のデータを集めるなどした後、5月に東京地裁に提訴した。今年5月に言い渡された判決で伊藤繁裁判長は、洗浄には有害な化学物質が洗い残され、業者側には十分に洗い流す注意義務があったと指摘。その上で、①清掃後から化学物質過敏症の症状を発症したエアコンの排水がアルカリ性を記録した②アルカリ性物質は内部の変色を促す特性があり、エアコンがあった場所に近い柱や壁紙の色が濃くなった③「なまじりで、業者が十分に洗い流さ

●苦しむ人の救済を
裁判に踏み切ったのは、同じ病気で苦しむ人の役に立ちたかったからだ。女性は「原因が特定できず、泣き入りしている人は少なくないはず。判決がそろった人たちの救済につなげてほしい」と語る。代理人の大伴弘井弁護士は「エアコン洗浄を巡る同様のトラブルの解決につながる先例になる」と評価する。【関根健志 写真も】

●「洗浄不足」認める
女性住民調査員に自費で鑑定を依頼して自宅の化学物質のデータを集めるなどした後、5月に東京地裁に提訴した。今年5月に言い渡された判決で伊藤繁裁判長は、洗浄には有害な化学物質が洗い残され、業者側には十分に洗い流す注意義務があったと指摘。その上で、①清掃後から化学物質過敏症の症状を発症したエアコンの排水がアルカリ性を記録した②アルカリ性物質は内部の変色を促す特性があり、エアコンがあった場所に近い柱や壁紙の色が濃くなった③「なまじりで、業者が十分に洗い流さ

●苦しむ人の救済を
裁判に踏み切ったのは、同じ病気で苦しむ人の役に立ちたかったからだ。女性は「原因が特定できず、泣き入りしている人は少なくないはず。判決がそろった人たちの救済につなげてほしい」と語る。代理人の大伴弘井弁護士は「エアコン洗浄を巡る同様のトラブルの解決につながる先例になる」と評価する。【関根健志 写真も】

女性の発症 男性の3倍

これまでに3000人の患者を診察してきた「ふくすみアレルギー科」(大阪市)の吹角隆之院長によると、化学物質過敏症は短期間に大量の化学物質に暴露するか、低濃度で持続的に暴露することによって発症し、その後は微量の化学物質でも症状が出るようになる。頭痛、筋肉痛、倦怠感、関節痛が主な症状で、集中力や思考力の低下、不眠や感覚異常なども起こる。女性の発症者は男性の3倍以上、30~50代が多い。

どの化学物質に症状が出るかは人によるものの、最初は1種類に反応し、徐々に増えるケースが多い。予防策として、吹角院長は①臭いが強い物質②虫を殺す物質③車を乾かす物質④有機溶剤⑤排ガスなど燃焼後の物質などをなるべく吸わないよう訴える。また「五感に響いている時に休めることが必要。寝る時の衣類や寝具には、強く香る洗剤や柔軟剤の使用を避けるべきだ」と呼び掛けている。

なかつた過失がある」と認定した。業者側は女性が清掃前から体調を崩していたと主張したが、判決は「花粉症・腰痛以外の持病はなく、洗浄剤を十分に洗い流さなかったことで化学物質過敏症を発症した」と結論付け、業者側に1300万円の支払いを命じた。女性は今も外出時に常にマスクを着ける。化学物質を含んだにおいをかぐとめまいがして倒れることもあるため、人混みは避け、タクシーに乗る際は冬でも窓を全開にする。新幹線や飛行機にも乗れない。猫と一緒に死んでしまおうかと考えたこともある。